



市議会議員  
上田由美子  
☎ 68-2106  
Fax 68-2146



参議院議員  
井上さとし



前衆院議員  
藤野保史

9月議会 上田由美子市議の一般質問(2)

止めさせるために、市が行動を



【上田市議】 庄川の最上流の岐阜県高山市に、産業廃棄物の最終処分場建設が計画されている。計画場所は、岐阜県高山市庄川町六厩(むまや)地内で、庄川の支流六厩川の upstream に位置する。

埋立面積は11haで、埋立廃棄物の種類は、ダイオキシン類を含む燃え殻、汚泥、廃プラスチック類、コンクリートくず、金属くず、鉱さい(鉱物の精錬時に生じる不純物)、がれき類、ばいじん、動物の糞尿、動物の死体、廃石綿、水銀など18品目である。埋め立てる廃棄物の総量は240万立方メートル、東京ドーム2杯分で、埋め立て期間は26年間である。

飲料水、上水道用水、農業用水に影響  
水銀、カドミウムなど 浄水場で処理不可能

最終処分場の許可権限は岐阜県知事にあるが、富山県側が大きな影響を受ける。庄川の水は、小矢部市内の農家が農業用水として利用しており、地下水を井戸で汲み上げ飲料水としている家庭も多くある。また、小矢部市は水道の水源の一つとして庄川の地下水を利用しており、水道水全体の23・6%を占めている。

環境水質学と上水道工学の専門家の意見を讀んだが、水道の浄水場では、水に溶解している重金属、例えば鉛、水銀、カドミウムなどは処理不可能であり、水道水源はもとより、農業用水源としても同様に可能な限り保全すべきである。

埋立処分場から浸みだす水は、排水基準まで処理して放流するとしているが、規制される水質項目はごく一部であり、基準値のない有毒物質には対応できない。また、受け入れる産業廃棄物は18品目とされているが、20種類に分類されるうちのほぼすべての産業廃棄物を受け入れる。

埋め立て終了後

未来永劫の管理に誰が責任を?!

埋立処分場は26年間で終了する計画だが、重金属など非分解性物質が埋め立てられていけば、未来永劫管理が必要である。事業者が撤退すれば地元や下流の自治体が税金で管理を継続しなければならない。ゴム製遮水シートが劣化し浸みだす水も問題になる。地震や豪雨による災害への対策も重要になる。

このことから、岐阜県高山市での産業廃棄物最終処分場建設を止めさせるために、小矢部市も行動を起こす必要があるのではないか。

「必要に応じて対応を検討」

【企画政策部長】 産業廃棄物最終処分場建設は、岐阜県において県条例・関係法令に基づき、適切に審査が進められるものと考えている。清流として名高い庄川や豊かな地下水への影響、長期にわたる埋立地の管理など環境への負荷が考えられる。最終処分場建設計画や今後の経過を注視する必要はある。建設計画や他市の動向を見極め、必要に応じて対応を検討していきたい。

【上田市議】 庄川沿岸用水土地改良区連合で反対の動きがあると聞いているが、小矢部市でそれらの団体の動きを知っているか(参考・南砺、砺波、高岡、射水の4市議会でも岐阜県知事に慎重な判断を求める意見書を提出)。

【産業建設部長】 小矢部市土地改良区では、今のような話が出てきていない。今後出てくれば企画政策部とも協議しながら適正に対処したい。

【上田市議】 庄川の水はきれいな水として、皆さんが信頼して使っているのです、この水を守るために小矢部市として力をつくしてもらいたい。

おやべ  
あちこち



金屋本江のお宮さんの横にひまわりが咲き誇っています。=9月25日